

和歌山県名匠

じょう じゅん いち
城 純 一 (竿名 ぎょしゅう 魚集)

■経歴及び業績

大正14年福岡県で生まれる。昭和12年に製竿師“源竿師(げんかんし)”に入門し、ヘラ竿づくりの道を歩み始めた。

昭和21年に独立するとともに、「魚集」の銘を名乗る。以後、永きにわたり、製竿師として精進を積むとともに、幾多の技法の考案、改善により生産能力の向上と発展に努めてきた。

特に、火入れの工程に強火焼き入れ工法を初めて取り入れ、竹のしなやかさを残しつつ、竹の強度を増すという相反する効果の両立に成功した。

また、竿の意匠にも工夫を凝らし、握り部分の先端から籐(とう)を巻き上げる「渦巻き握り」を考案するなど芸術性に富んだ作品を作り出した。

昭和55年から2年間と平成7年からの3年間、紀州製竿組合の組合長を務めるなど本県製竿業界の発展に貢献するとともに、現在までに5人の弟子を育成するなど後進の指導にも尽力している。

昭和59年に和歌山県技能賞を受賞している。



職 種：製竿師